

## 章 ビジョン実現に向けた取り組み

新しい時代に向けた「青森の港湾ビジョン」の実現を目指すにあたり、国土形成計画や広域地方計画を視野に入れつつ、市民、企業、地域協議会、行政の連携をとり、柔軟な組織体制や官民の協働を実践し、効率的な行財政運営のもと、以下の取り組みにより着実に諸施策を進めていきます。

### 1．ビジョン実現に向けた組織・体制づくり

本ビジョンを具体化・推進していくためには、将来の各時点において現況や将来予測などによりビジョンで掲げた方向性を具体的な戦略へブレイク・ダウンしたり、ビジョンの進捗状況を適宜検証することが必要です。そこで、ビジョン全体の進捗状況の検証や施策評価、具現化を実施するために、協議会・研究会等を設置するなど、組織・体制づくりに努めていきます。

### 2．市民参画の促進による港への関心の付与と多様な主体との連携

港の利用者は、荷主、物流業者、旅行者、地元市民など、実に多様な主体となっています。今後、より使いやすく、より多くの方々に親しまれる港を目指していくためには、多くの方々に港への関心を持っていただき、これら多種多様な港湾利用者との連携が必要不可欠となっていきます。そこで、多くの市民が施策検討や計画策定に参画できる機会を拡大することで、住民参画を促し、港への関心を付与していくとともに、地元企業やNPOなど多様な主体と連携しながらビジョンを推進していきます。

### 3．背後地域との連携強化

港は地域に住む方々共有の財産であり、今後の港づくりを考えるうえで、港の背後地域及びそこに住む方々との連携は不可欠となります。今後は、各関係機関との連携を図りつつ、臨海部のみならず、背後地域のまちづくり・地域づくりと連動させた取り組みを図っていきます。

### 4．港湾計画への反映

主要な港ごとに策定される港湾計画は、港のあり方、あるいは港湾整備の方向性を示した行政計画です。ビジョンを確実に推進していくために、港湾計画の策定や改訂に際しては、地元のニーズを考慮しつつ、ビジョンの港湾計画への反映を図っていきます。

### 5．港湾施設の効果的・効率的な整備

地方分権と成熟型社会への移行が進むなかで、限られた行政の投資余力を効果的に利用するという観点からも、公共投資については緊急性や必要性、有効性を適切に判断していく必要があります。そこで、ライフサイクルコストを考慮しつつ、青森県港湾の適切な機能分担と連携を図ることで、港湾施設の重点的整備に努めるなど、効果的・効率的な整備を図っていきます。

## 6．既存ストックの有効活用と適切な維持・管理

人口減少や少子・高齢化の進展など、社会・経済情勢の変化に伴い港湾における施設利用や土地利用の形態が変化してくる可能性があります。今後は、これらの変化を勘案しつつ、地元のニーズに合わせて既存の港湾ストックの有効活用を図っていきます。また、公共投資の効率化や環境保全の観点から、適切な維持・管理・改良により、港湾施設の延命化を図っていきます。

## 7．環境・景観への配慮

環境問題への関心が世界的に高まっているなか、わが国でも、あらゆる事業に環境への配慮が求められています。また、歴史的遺産の継承や美的景観に対する市民ニーズの高まりなど、景観に対する配慮も重要となっています。今後は、ビジョン実現に係る取り組みにおいて、周辺の環境や景観に対する配慮を図っていきます。

## 8．ビジョン実現へ向けた情報の収集

本ビジョンで掲げた方向性をより具体的にしていくために、様々な調査等を通じて情報の収集を図ります。調査項目の例を以下に示します。

輸出入貨物の発掘について

コンテナ定期航路開設可能性について

国際フェリーの就航可能性について など

## 9．社会・経済情勢に応じたビジョンの見直し

本ビジョンは、概ね 30 年間の青森県港湾のあり方について示したものです。今後 30 年の間に、青森県港湾を取り巻く社会・経済情勢は、現況とは異なったものへと変遷していくことは容易に予想されます。そこで、このような今後の社会・経済情勢の変化に的確に対応していくため、適宜、ビジョンの見直しを実施していきます。